第Ⅲ章
尾道の海運業と港

●市民生活に身近な旅客航路

瀬戸内海の多くの島を市域にもつ尾道市では、船が人々の移動手段として大きな役割を持っています。しまなみ海道が整備された現在でも、尾道には多くの旅客航路があります。旅客航路は、単に陸上交通の代替手段というだけではなく、移動する人々に穏やかな瀬戸内海の風景を届け、尾道での暮らしの豊かさを生み出す基盤としての役割も果たしています。

映画にもたびたび登場し、写真や絵画の素材としても扱われるなど、尾道のイメージアップにも寄与しています。

尾道水道を渡る渡船の便は、大都市の鉄道並みに５～10分の短い間隔となっています。利便性の高い住民の足として定着しています。

尾道水道を渡る渡船

瀬戸田港に停泊する定期船

尾道駅前からは因島と瀬戸田を連絡する基幹航路があり、因島・瀬戸田は三原港とも連絡しています。島嶼部間を連絡する近距離海上交通の便が多数あることも分かります。因島の土生港は内航船の入港隻数が国内でトップ[注10]の港湾です。

(注10) 国土交通省総合政策局情報管理部「港湾統計（年報）」2007年